妊娠後期の高トリグリセリド血症が出生体重に与える影響

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2022-03-04 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 鬼ヶ原, 幹久, 折田, 有史, 徳留, 明夫, 小林, 裕明 メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/10271/00004034

DOHaD 研究 (ISSN 2187-2597)
2021 年 第 9 巻 第 2 号 96 頁

第 45 回日本女性栄養・代謝学会学術集会
＜一般口演 1＞

妊娠後期の高トリグリセリド血症が出生体重に与える影響

鹿児島大学産科婦人科

鬼ヶ原　幹久
折田 有史、徳留 明夫、小林 裕明

（はじめに）
脂質代謝と周産期アウトカムの関連は近年注目されている。しかしながら、日本人でのデータは十分とは言えない。今回、県民健康プラザ 鹿屋医療センターにおいて、帝王切開で妊娠帰結となった妊婦の臨床データに基づき、妊娠後期のトリグリセリド(TG)値が出生体重に与える影響を検討した。
（対象と方法）
2015 年 1 月から 2019 年 12 月の期間に、県民健康プラザ鹿屋医療センターで、帝王切開分娩となった症例の背景(妊娠初期 BMI、分娩時 BMI、妊娠中体重増加量、糖代謝異常の有無、妊娠高血圧症候群の有無など)、妊娠後期の血液検査データ(TG 値など)、出生体重、新生児合併症などを後方視的に検討した。単胎 414 例のうち、データに欠損があった 41 例を除いた 373 例を対象とし解析を行なった。本研究は県民健康プラザ鹿屋医療センターの院内倫理委員会の承認のもとに行なった。統計解析には EZR を用いた。
（結果）
　出生体重と TG 値は正の相関を認めた。TG 値の平均値は SGA 群で 260.5（±89.9）mg/dL、AGA 群で 273.0（±103.7）mg/dL、LGA 群で 330.6(±129.3) mg/dL であった。TG 値と相関のある背景因子は妊娠時体重および BMI、分娩時体重および BMI であった。
LGA と相関する項目は TG 値・妊娠初期 BMI・妊娠中の体重増加量であった。妊娠初期 BMI と TG 値は正の相関を認めたが、妊娠中の体重増加量と TG 値は相関を認めなかった。また、食事療法介入群と非介入群では、妊娠中の体重増加量は介入群で有意に少なかったが、TG 値・出生体重の低下には寄与しなかった。
（考察）
過去の報告と同様に、TG 値が高いと LGA のリスクとなることが示された。
これまでの食事療法は体重管理・血糖値の安定化を中心として行われてきたが、本研究結果から LGA 予防において、これらに加えて、TG を指標とした脂質管理も加えることの重要性が示唆された。